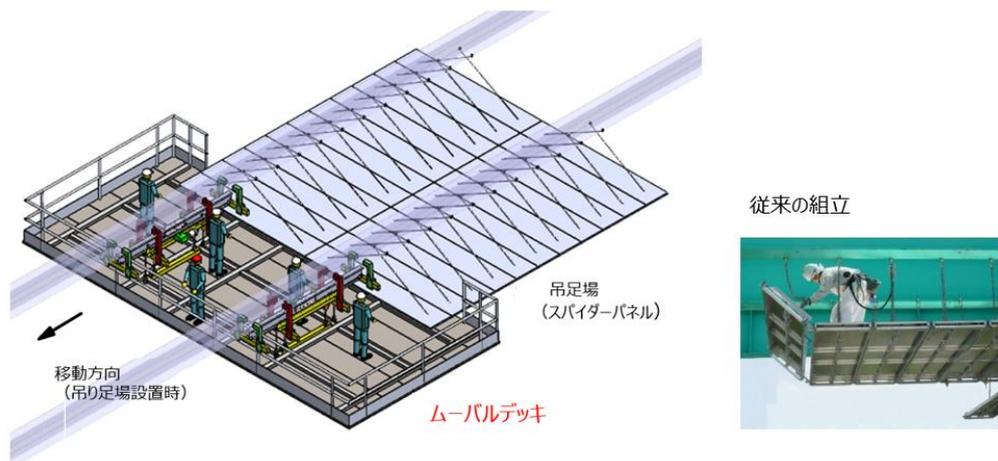


報道関係者各位  
プレスリリース

2026年3月10日  
株式会社タカミヤ

タカミヤ、大林組と共同で橋梁向け懸垂式移動足場「ムーバルデッキ」を開発  
～車線規制不要で施工性を大幅改善。全面吊り足場も不要、開口部を解消し、  
建設業界の人材不足・コスト課題に応える～

足場をはじめとする建設業界のプラットフォームとして、業界課題に革新的なソリューションを創造しつづける株式会社タカミヤ（以下タカミヤ、大阪本社：大阪市北区、東京本社：東京都中央区、代表取締役会長兼社長：高宮一雅）は、株式会社大林組（本社：東京都港区、代表取締役社長兼CEO：佐藤 俊美）と、懸垂式移動足場「ムーバルデッキ®」を共同開発し、レンタルを開始しました。  
老朽化が進む橋梁のリニューアル工事における、作業員の安全確保と施工効率向上に貢献します。



### ■ 開発の背景：リニューアル工事が急務となっている老朽化した橋梁

国土交通省の調査によると、2040年までに建設後50年以上経過する橋梁は、全国の約73万橋のうち7割以上にのぼるとされており、社会インフラの老朽化が深刻な社会問題となっています(\*1)

橋梁のリニューアル工事では、橋梁の下部に吊り足場を設置することが一般的です。しかし、この足場の組立・解体作業時には、足場の端部が開口部となり、作業員の墜落災害リスクが常に存在していました。

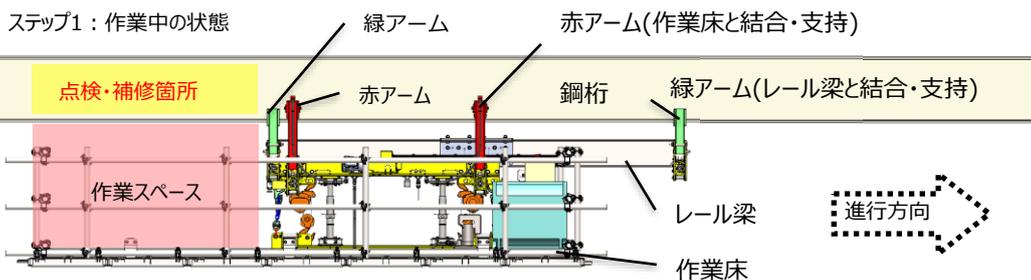
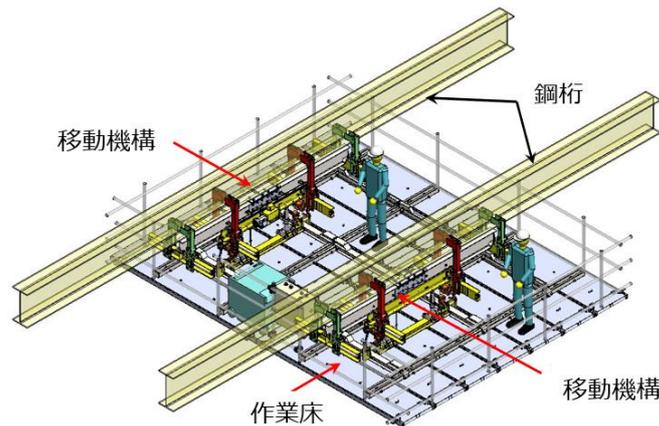
そこで、このリスクを根本的に解消し、作業の安全性と効率性を両立させるため、懸垂式移動足場「ムーバルデッキ」を開発しました。

\*1: 国土交通省「建設後50年以上経過する社会資本の割合」

[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/\\_pdf/50year\\_percentage.pdf](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/_pdf/50year_percentage.pdf)

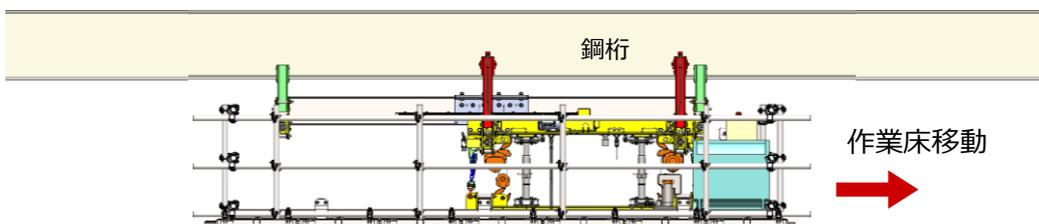
### ■「ムーバルデッキ」とは

橋梁や高速道路のリニューアル、点検工事に於いて、作業用の吊り足場を安全かつ効率的に組立・解体できる移動足場です。「ムーバルデッキ」は移動機構と作業床で構成されており、鋼桁の下フランジを把持（はじ）するアームによって、橋梁にぶら下がる形で懸吊（けんちよう）され、レール梁（緑アームで懸吊）と作業床（赤アームで懸吊）の支持を油圧により交互に入れ替え、アームをスライドさせることにより移動します（尺取り方式）。また、単体で橋梁点検・補修工事の作業足場として使用できます。



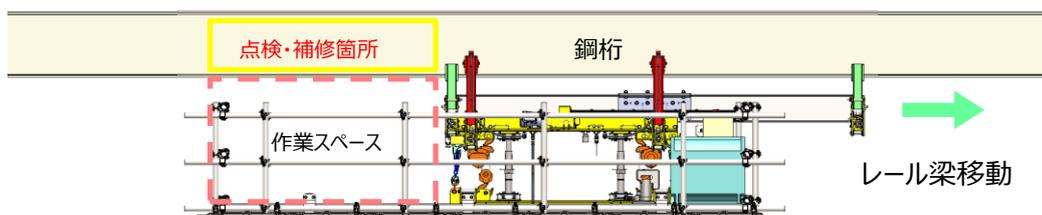
緑アームにより作業床を鋼桁から吊った状態で、吊り足場設置・撤去や点検の作業を実施

#### ステップ2：作業床移動



作業床を移動後、赤アームの油圧ジャッキを上げ、鋼桁を把持し緑アームを開放

#### ステップ3：レール梁移動



レール梁を移動後、赤アームの油圧ジャッキを下げ、緑アームにて鋼桁を把持

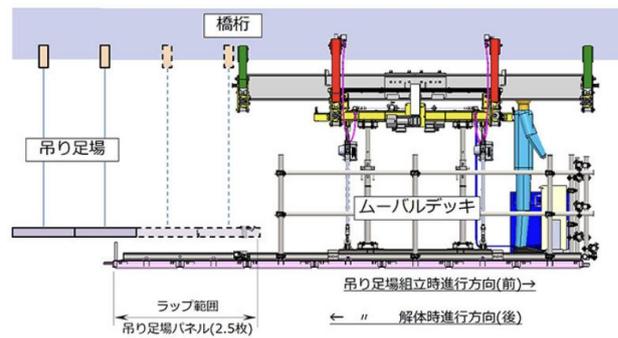
「ムーバルデッキ」のアームは開閉するため、添接板や補剛材などの支障物がある場合には、アームを開いて移動させることにより回避できます。



## ■「ムーバルデッキ」の特徴

### ①開口部の解消

「ムーバルデッキ」は、作業の進捗に合わせて常に吊り足場の下を覆い、開口部をなくします。これにより、高所での作業における墜落リスクを大幅に低減し、作業員の安全を確保します。不安定な姿勢での作業がなくなるため、施工性も同時に向上します。



### ②全面吊り足場が不要

橋梁点検・維持補修工事では、施工箇所が点在するケースが多くあります。作業員や資機材を移動するために橋梁下部全面に吊り足場を組立てると、足場面積が増加しコストが上昇します。「ムーバルデッキ」は、点検・補修作業に必要な最小限の作業床を自走させて施工箇所まで移動でき、全面吊り足場の組立・解体をする必要がなくなるため、同様の工事において省人化・省力化、コスト縮減ができます。



### ③車線規制が不要

従来の橋梁の補修工事や点検には橋梁点検車等を使用するため、交通渋滞の原因となる橋面上の車線規制が避けられませんでした。「ムーバルデッキ」は、すべての作業を橋梁の下で行うため、車線規制を不要とし、社会への影響を最小限に抑えます。



### ④設置・撤去が容易

部材はすべて人力で搬入・組立・解体・搬出が可能な重量・寸法のため、クレーンなどの重機が不要です。作業床にはパネル式吊り足場（スパイダーパネル）を採用しており、スタートパネルに下部フレームと移動機構を取り付けることで「ムーバルデッキ」が完成します。吊り足場の組立に使用した後は、床材を吊り足場と同じレベルまで引き上げ、組立てた吊り足場と接続することで吊り足場の一部として使用できます。設置・撤去が容易なため、熟練工の不足という建設業界全体の課題解決にも貢献します。

【ムーバルデッキ組立～吊り足場との接続まで】



① ムーバルデッキ組立

②吊り足場設置

③吊り足場との接続

## ■ 本製品の提供方針について

「ムーバルデッキ®」は、大林組と共同で開発した製品です。橋梁の大規模更新工事に使用する際の最終仕様等の一部機能は、現在から当面の間、大林組と引き続き共同開発中となっておりますが、橋梁点検・補修などの分野では、安全性と生産性の向上に寄与する技術としてご活用いただけるよう、幅広くレンタル提供を行う方針です。

## ■ 実績・適用例

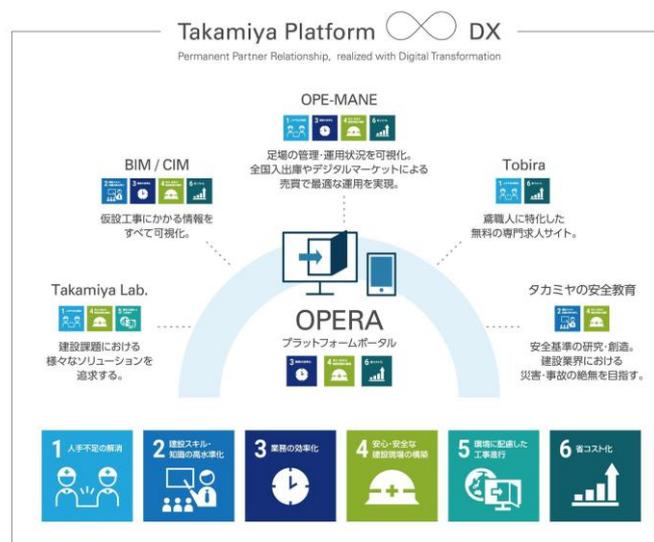
中央自動車道（特定更新等）松ヶ平第1橋床版取替工事

中央自動車道（特定更新等）茂都計川橋他3橋床版取替工事のうち、大沢川橋

令和7年度 中国支社 橋梁保全工事 米子自動車道山田高架橋他1橋 （株）富士技建中国支店様（施工中）

## ■ 建設業界の安全性・生産性向上に向けた共同開発も「タカミヤプラットフォーム」の一環

タカミヤは建設業の深刻な人手不足・コスト高などの問題に対応するため、建設ソリューション群「タカミヤプラットフォーム」を提供しています。足場等の仮設機材の調達・運用マーケットプレイス提供やデジタル設計支援等のデジタル化にはじまり、鳶職人に特化した無料の求人サイトまで、多岐にわたるソリューションを統合しています。今回の共同開発「ムーバルデッキ」もその一環として、建設業界の安全性・生産性向上などに貢献します。



## 主なサービス内容

- 「OPERA」：建設DXの入口。仮設機材の24時間WEB注文などをはじめとしたプラットフォームポータルです。業務をデジタル化し、効率性を大幅に向上させます。

- 「OPE-MANE（オペマネ）」：建設現場の足場運用マネジメントサービスです。顧客が購入した足場機材の管理・整備を代行。足場の運用状況も確認可能です。ATMのような感覚で、全国の機材Baseから足場機材を引き出せる仕組みです。 「Iq-Bid」：次世代足場「Iqシステム」を対象とした足場のリアルタイムマーケットです。次世代足場保有資産の運用状況や市場価格を確認しながら、ユーザー同士で自由に足場の売買やレンタル（貸し借り）を行うことができます。OPE-MANE内で提供される機能の一つです。
- 「タカミヤのBIM/CIM」：3Dレーザースキャナーで仮設工事の設計を効率化させることができます。また、3D図面を共有・更新活用することで、建築物の情報を一元管理します。
- 「Tobira」：鳶職人に特化した求人サイトです。人手不足の解消を支援し、業界全体の採用効率向上が可能です。
- 「タカミヤの安全教育」：墜落や落下時の衝撃数値の可視化など、バーチャルと実体感を融合した最先端の足場教育プログラムを提供します。

これにより、タカミヤは建設業界のコスト削減、人材不足の解消、安全性向上、業務効率化を推進し、業界全体の生産性向上に貢献します。

## ■ 株式会社タカミヤについて

建設現場で使われる仮設機材をはじめとする、住宅用機材、構造機材、農業用ハウス、防災用ダムなど多彩な製品について、開発・製造から、販売、レンタル、設計、施工までトータルにサービスを提供しています。

技術革新を通じて付加価値の高い製品やサービスを生み出し、地下工事から超高層建物、高速道路、橋、農業、自然災害対策分野など、さまざまな「現場」の安全性・施工性を向上させ、業界の発展に貢献しています。

社名 : 株式会社タカミヤ

代表 : 高宮 一雅

本社所在地 : 大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪 タワーB 27階

: 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング12階

URL : <https://corp.takamiya.co/>

設立 : 1969年6月21日

資本金 : 10億 5,214万円

従業員数 : 775名 (連結従業員数 1,356名)

事業内容 : 仮設機材の開発、製造、販売及びレンタル、仮設工事の計画、設計、施工

**【本件に関する問い合わせ先】**

タカミヤ広報事務局 : シェイプウィン株式会社 (担当 : 齊木、李、江原)

03-6427-2298 [press-takamiya@shapewin.co.jp](mailto:press-takamiya@shapewin.co.jp)